日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043（222）7207番

97. 5. 16 No. 4598

28名の公労法解雇、ついに撤回
この勝利をステップに！（下）

日刊動労千葉 №4597号
（97年5月15日）より続く

闘う路線の勝利

二八名の解雇撤回闘争の勝利は第二に、動労千葉の運動路線の正しさを改めて実証した。

動労千葉は、分割・民営化攻撃の本質を目をそらすことなく見すえ、この攻撃と真正面から対決することを避けては、日本の労働運動の未来はないことを訴え、第一・二波スト決起の決断をはじめ、今日まで原則を曲げずに闘いの道を進んできた。

(1) 九〇・三84時間スト―九五・一二72時間ストを頂点とした原則的な闘いの展開、「恒常的スト体制」の確立など、JR体制との闘いに全組合員の怒りと力を結集することのなかにこそ勝利の道があることを提起し、一切の差別や組織破壊攻撃、合理化攻撃に対し、つねに職場に依拠し信頼して闘いぬく大衆闘争路線を堅持したこと。

(2) また、分割・民営化攻撃の最悪の先兵となった旧動労―JR総連・革マルとの組織をあげた対決ぬきに闘いの勝利はあり得ないことを訴え、分離・独立闘争以来の全成果にふまえて、つねにその先頭にたって闘いぬいたこと。

(3) さらに、国鉄闘争のみならず、自らが全ての労働者の闘いの先頭にたつ立場にたちきり、「全国にはばたこう」路線を確立して大失業と戦争の時代をはね返す労働運動の新しい潮流を創りあげるために全力で奮闘してきたこと。

(4) そして何よりも、被解雇者と強制配転者、原職で闘う者が一体となって団結し闘いの道を進む組織路線を確立した。全組合員が物販オルグに行き、また、職場に残った者こそが解雇撤回や強制配転粉砕闘争の最先頭で闘うことで強固な団結を創りあげたのである。

自らの力で！

こうした原則的な闘いの路線・方針がひとつの流れに合流したところに動労千葉の力が生まれ、勝利の原動力になったのだ。この十年間動労千葉が訴え、貫いてきたことは、労働組合運動自体そのもの実践であった。

われわれは、裁判や労働委員会闘争に依拠せず、勝利は自らの力で獲得することに撤して闘いぬいた。

だからこそ、動労千葉がきりひらいた地平は、二八名の解雇撤回のみならず、国鉄闘争全体の勝利の道すじをも示している。国鉄闘争の勝利の展望は、分割・民営化や国鉄改革法を承認し、「JRの発展に寄与する」と表明した「八・三〇申し入れ」の道ではなく、われわれが進んできた道にあることが改めて実証されたのである。

浮き彫りにされた深刻な破たん

さらにこの勝利は、国鉄分割・民営化政策が完全に破たんし、深刻な矛盾を広げていることを改めて浮き彫りにした。

清算事業団は、二八兆円に膨れあがった債務を抱え、政府はもはや「処理方針」の確定を先延ばしすることのできない事態にあえいでおり、JR貨物や三島会社は二進も三進もいかない構造的な経営危機に直面している。さらに革マルと結託した異常な労務政策の矛盾が噴出し、そして何よりも一〇四七名の解雇撤回闘争を先頭に国鉄労働者が闘いの旗を守りぬいているという状況は、分割・民営化政策の完全な破産に他ならない。

まさに、屈せざるわれわれの闘いが、「全員の解雇を撤回します」と言わざるを得ないところまで敵を追いつめたのである。

新たな絶滅攻撃をはね返して！

しかし、重要なことは次の点だ。政府―JR当局―JR総連・革マルが、分割・民営化体制の全面的な行きづまりのなかで、それぞれの思惑を激しくぶつけ合いながら、破たんの反動的打開をかけて「第二の分割・民営化攻撃」とも言うべき、新たな国鉄闘争絶滅攻撃を激化させていることである。

橋本首相は、この四月、JR東日本・松田社長をはじめ、本州JR各社を呼びつけ、二八兆円の累積債務の追加負担について通告を行なった。

また政府や当局は、「二〇二億スト損賠訴訟」の取り下げ以降、国労を路線転換・変質させ、連合化するためにあらゆる手段を尽くして画策している。

東京地裁は、政府の意を受けて、北海道・九州採用差別事件の行政訴訟の五・二八結審をも

《ウラへ続く》

1985. 11. 28 第一波スト 津田沼電車区